

○選択必修領域

学校をめぐる近年の状況変化とそれに対する学校の組織的対応

講習番号	選必-4
講習名	「ひきこもり」統計が語る「もうひとつの事実」～社会学の視点から見える「現実」
日程・時間	8月7日(水) 15:15~16:45
時間数	6時間(講習番号「選必-1」～「選必-4」の全講習の受講が必要)
受講料	6,000円(「選必-1」～「選必-4」の全講習分)
担当講師	工藤 宏司
募集人員	120名
概要	2000年頃から社会問題化された「ひきこもり」。最新の対応ガイドラインでは、「不登校」との連続性に留意することが明示され、早い段階からの対応が謳われています。しかし彼らの「実態」として示される種々の(統計)調査には、その結果から一般に示される「現実」以外に、彼らを理解するうえで重要な点が含まれています。この講座では「ひきこもり」者の統計が示す「もうひとつの事実」について社会学の視点から解き明かし、現実のもつ複数性について考えます。
キーワード	「ひきこもり」、「統計と操作的定義」、「文脈依存性」
受講者へのメッセージ	「統計調査」の「客観性」はしばしば自明のものとされていますが、測定された「数値」の外部には、考慮されるべき多様な現実が交錯しています。こうした事情を勘案することで、調査結果はわれわれに多様な現実理解の可能性を示します。「ひきこもり」の理解にそれがどのように現れるのかについて考えてみましょう。
主な受講対象者	